

みなと元町

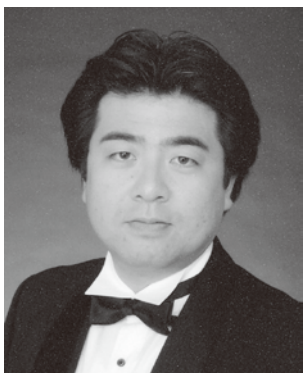
タウンニュース

No.
328

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

学生の変異点をつくる大人の責任

合資会社ゼンクリエイト 根津 昌彦



そこで、重要なのが学生と接点を持った大人の役割である。学生たちは、指揮者、ボイストレーナー、技術顧問として大人を招き、自らの音楽を高めたいと指導を受ける。招かれた大人は、学生たちの潜在能力を開花させることに全力を尽くし、結果を出すということが課せられる。この「結果」こそが、私たち大人が学生たちに体験させてあげなければならない一番のポイントである。

一緒に悩んでくれる大人の存在はもちろん学生にとって心強いものであるが、新たなアプローチを示したり、具体的な体の使い方を教えることで、自分たちの音楽が変わったと実感させてくれると、学生たちは自分に自信を持ち、もっと高みを目指したいという欲が出る。このスパイラルをつくっていくことが、指導者である大人の責任だと私は思う。成功体験を積み重ねていくことで、やがて合唱団は力と自信をつけ、指導者との信頼関係も増して、より高いレベルの音楽を演奏できるようになるのである。

1団体わずか20分という持ち時間で、私に与えられた指導の時間は10分程度であったが、歌い手を見ていると、明らかに自分たちが変わっていつていることに気づき、自信を持ち意欲的に歌っているのがわかる表情のメンバーがたくさんいた。団によって抱えている課題を瞬時に捉えて、自分の経験値から一番変化が期待できるポイントを指摘し、その部分の歌い方を提示して、変化を体感させることができたと思

感できたので、私も役割を果たせたかなと胸を撫でおろした。つらつらと合唱のことを書いたが、どうだろうか、これは地域まちづくり組織とコンサルタントとの関係にも、そっくりそのまま置きかえることができるような話ではないだろうか。どこの地域でもまちづくり活動の課題として、担い手の高齢化、若い担

おそらくこれは永遠の課題とも思えるのである。こうした課題に対する特効薬は私も持ち合わせていないが、ちょっとしたきっかけで新たな担い手を得てまちづくり活動が継続できる可能性が出たり、地元からまちづくり機運が高まって新たに取り組みをスタートさせたいと思ったときに、自分たちの思いを出し合い意見を戦わせながら活動を模索しているだけだと行き詰ってしまう可能性がある。そこで、まちづくりコンサルタントなどの専門家が地域に入り、一緒に悩みながら、まずはできることを見出し進め方を提示して、小さな成功体験と一緒にする。そうすることで、担い手である地域の人たちに自信が生まれ、もっとこんな風な取り組みができるのではないかという欲が出て、成功体験を共にした仲間と共に、一歩先に進んでいこうという流れができる。

これから神戸の都心でいろいろ起こるであろう新たなまちづくりの取り組みは、長年地域まちづくりに携わってきた、いわばプロの地元に加え、これまでまちづくりには全く参加もしたことがないビギナーの地元が、一緒に手を携えて挑んでいくという姿がイメージされる。そこで重要なのが地元の一体感の醸成につながる成功体験だと思う。小さなアイデアでいい。成功したという実績を積み重ねていくことで、地域の力で神戸のまちを変えていく。そのただ中にいるコンサルタントとしての責任を果たせるよう、一歩先を見据えた行動を私もしていきたいと思う。



「元町・夢街道」

書店の話(29)

海文堂③

岩田 照彦

平成十二年三月、店長の小林が退職すると、昭和六十年入社の福岡宏泰が店長に就任、業務をひきついだ。島田の転出によって、ギャラリーや音楽活動から縁遠くなったものの書籍の販売活動はその幅をひろげている。

PRの面では、月刊PR誌「海会」を創刊、平成十五年、三宮ブックスの事業縮小で海文堂へ席をおくことになった平野義昌は、担当する書架PRのため、週刊で新刊案内「人文社会から」と「ビジネス書ニュース」を発行、平成二十一年四月からは、二つの案内を統一、「週刊奥の院」として購入された図書にそえ、書店情報をPRした。

ブックフェア「震災から十年」そして、それから」を皮切りに、いしいひさいちマンガまつり、林哲夫の「装飾も仕事」展、みずのわ出版・幻堂出版著者合同サイン会、「ビッグイシュー」日本版バックナンバーフェア、切り絵作家成田一徹サイン会、パリ時代の中村直人（彫刻家、画家）、海上保安庁潜水士たちのフォトレポート展、海野弘「私の100冊の本の旅展とトーク&サイン会、石井桃子100歳記念フェア、神戸の書店九店舗と新潮文庫合同フェア開催など、ユニークな取り組みを展開する。

平成二十三年十月には、東日本大震災直後から仙台荒蝦夷出版物販売のほか原子炉事故で深手を負った福島・会津からの風として福島県出版社フェアを、「遺体」震災、津浪の果てに「刊行時には石井光太のトークとサイン会、ブックフェア」在仙台編集者＋書店員による震災本50冊＋10冊、東日本大震災津波被害を免れ蔵の中で陽の目から遠ざかっていた着物地による手作りブックカバー販売など、海文堂あげて被災地への思いによりそった。

古本へ目を向けるきっかけになったのは平成十八年十一月、みずのわ出版が「神戸の古本力」を刊行、サイン会を開いたのが発端だ。海文堂ではサイン会にあわせ三箱古本市を開催、これをきっかけに、古本への取り組みが本格化する。平成二十年四月、二階の一部コーナーを提供して「海文堂の古本市」への参加をよびかけると八店舗が参加、以後、定期的に開催することになる。希望する古書店には期間限定で棚を設け、気楽に書店でできる道もひらき、平成二十二年五月には、福岡店長による蔵書百円均一放出市を開いている。平成二十三年には、ちくま文庫が「女子の古本屋」刊行にちなみ、女子の古本屋による女子の古本市も開催した。

あわただしく過ごす毎日のなか平成二十五年八月五日、朝礼時、岡田節夫社長から従業員に、ホッチキスでとめた三枚セツトの紙が、全従業員に配られた。



栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は11月8日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(元栄海三丁目協会)奈良山喬一、(神戸市)川口雄也、(広島銀行)岡田大輔、(兵庫県信用組合)中村公亮・平野佳奈・宮本善弘・田中祥平、(㈱KKテクノ)松本美紀・松尾拓弥、(㈱神明)南千尋、(神明倉庫㈱)十時実希、(㈱イーエスプランニング)藤澤達也・西晶子、(三鈴マシナリー㈱)稲岡千碩、(佐野運輸㈱)北島幸宏・末松明、(新光明館)中川俊・篠原博明・大森貴美子・西村友博、(佐田野不動産㈱)佐田野宏之以上、21名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



編集後記

地下鉄海岸線の開通を決めた。東から三宮・元町・栄町である。鉄道の駅名は、地名が前提になっている。住所地名と駅名の結びつきが、利用者にもっとも便利、と理解され常識化されてきた。これに待ったと声をあげたのが商店街で栄屋人形材料店を営むわら元町五丁目商店街振興組理事長だつた松尾煌一さん。海に近い元町をアピールするため「みなと元町」に、と提言した。神戸市はやむなく新駅開業予定各地の意向を確かめるため投票制度を導入、「みなと元町」庄勝のほか、「三宮・花時計前」・旧居留地・大丸前などほかにも楽しい駅名が誕生した。みなとに近い元町が公に認識され、震災後、マンション中心の住宅街として急成長にぎわいの源になっている。名付け親の松尾煌一さんが十月十九日、亡くなった。九十四才。ありがとうございました。合掌。

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 12月

◇神戸元町商店街連合会 TEL391-0831

サンタクロースパレード

12月8日(日)13時～16時

◇元町3丁目商店街振興組合 TEL322-2797

元町3丁目Happyジャンボくじ

12月20日(金)～12月24日(火)

10時30分～19時

◇元町4丁目商店街振興組合 TEL366-2636

元町4丁目商店街歳末感謝フェア2019

12月6日(金)～12月15日(日)11時～19時

◇元町6丁目商店街振興組合 TEL367-5477

モトロク市 12月7日(土)11時～17時

(毎月第1土曜日開催)

◇風月堂ホール(有料) TEL321-5555

もとまち密席「慈雅亭」 12月10日(火)

桂 紋四郎 桂 佐ん吉 桂 春蝶

笑福亭 鶴志 桂 坊枝 月亭 八方

前売券は11月11日より神戸風月堂で発売

海という名の本屋が消えた（73）

平野義昌

元町通周辺地名の歴史（3）

元町通の西端を「宇治川」が流れている。川は阪神大水害はじめ何度も氾濫し、現在下流は暗渠になっている。春、上流では桜が見事に咲く。上流域は「宇治野村」、古代は「宇治郷」と呼ばれた。730(天平2)年に僧・行基が船息院と尼院を建てた記録(「行基年譜」)がある。大輪田泊の修築に関係したようだ。同時代の法隆寺史料にも「宇治郷」の名称が出てくる。「うじ」＝「兎路」で、狩猟を由来とする説がある。^{註1}
「宇治野山」の麓に熊野神社がある。祭神はイザナギノミコト・イザナミノミコト。神社由緒は「宇治物部氏」創建と伝える。平清盛福原遷都の際、工事責任者・藤原邦綱が古くからあった神社を再建した、と言われる。では「宇治物部氏」が地名由来かという、確証はない。村の氏神は「八宮神社」(場所は坂本村内)。

江戸時代の地図には農業用水の池が数多くあり、30戸ほどの村だった。明治初めの地図では、「徒刑場」と「大病院」が描かれている。「徒刑場」は1868(明治元)年建設、73(明治6)年「懲役場」になり、75(明治8)年移転のため土地は民間に払い下げられた。「大病院」は69(明治2)年4月に完成、洋館の「神戸病院」(のち兵庫県立病院、現在の神戸大学医学部附属病院の前身)である。^{註2}・写真
伊藤博文が病院建設を推進した。伊藤は「神戸事件」後、神戸運上所の外国御用掛、外交交渉役であり、開港場管轄外国事務を統括する責任者である。外国人の待遇改善、治安、雑居地許可などその職務は広い。遊郭設置も外国人対策の一面がある。伊藤は親しい英国人から、日本の敵は梅毒、駆梅院(病院)を造るべし、と忠告された。開国して遊郭を開設した以上、感染症対策は緊急課題だった。68(明治元)年4月、伊藤は病院建設資金を公募した。まだ「病院」の言葉は普及しておらず、「軍官治療所」と言った。^{註3}
〈明治二年三月、病院は竣工し、四月、米医師ウェーデルを招いて治療をはじめた。のち梅毒病院、種痘所、医学校、薬学校などを生み出した神戸病院のはじまりである。〉^{註3}

建設地は「宇治野村」庄屋が無償提供した。伊藤は深く感謝し、篤志を賞賛した。寄付金は3800両を超えた。^{註3}

当時の有力者たちは太っ腹である。多くの人が神戸の近代化のために私財を提供した。

伊藤はさまざま功績があったものの、病院完成まもなく県令を罷免される。^{補註1}
72(明治5)年、「宇治野村」は「宇治野町」になる。その後「宇治」とつく新町名が複数できたが、1914(大正3)年にすべて下山手通と中山手通に吸収された。^{註1}

郷土史研究・福原会下山人は古名保存の立場から地名「宇治野」消滅を嘆く。「部落改善とかが動機であつたらしい」と、被差別部落の存在に言及する。^(註4)「菊田一夫」の稿で登場した本屋の小僧さんの出身地である。

1896(明治29)年、「宇治野山」に「兵庫県神戸測候所」(のち神戸海洋气象台、現在神戸地方气象台)が開設された。

「宇治野」「花隈」に縁のある文学者について宮崎

修二郎の文学史が詳しい。^{註5}

1893(明治26)年、島崎藤村(1872～1943年)が宇治川相生橋ほとりの写真館でポートレートを撮影している。当時藤村は女学校教師、許嫁のある教え子に恋をした。藤村は自責の念からキリスト教信仰を捨て辞職した。傷心の旅である。海岸通の旅館に泊まり、教え子の友人を訪ねている。藤村はこの女性にも思いを寄せてしまう。須磨にも滞在し、この旅を詩や童話にしている。^{補註2}

95(明治28)年5月、日清戦争に従軍した「日本新聞」記者・正岡子規(1867～1902年)が帰国の船内で咯血し、和田岬に上陸。「神戸病院」に入院した。病床での句がある。

「時鳥(ほととぎす)山手通りと覚えたり」

7月、子規は高浜虚子に付き添われ、須磨保養院に移る。

1913(大正2)年、島崎藤村が再び来神、花隈の旅館でフランス行きの船を待つ。小説にこの旅館を、「神戸の港町から諏訪山の方へ通う坂の途中に見つけた心持の好い」(註6)と記す。紀行文『海へ』(実業之日本社、1918[大正7]年)で出港前後の港を描写する。

芸術家の憧れヨーロッパ遊学であるのに、藤村は送別会を断わり、横浜出港の船にわざわざ神戸から乗る。姪(次兄の娘)と不倫の恋に陥り、妊娠させてしまった。その結果の海外逃避である。顛末を小説『新生』に書いて、「新生事件」と呼ばれるのは帰国後のこと。東京から有島生馬、大阪から近松秋江、神戸御影から教え子が見送りに来た。宮崎の記述、
〈港を眺めながら、藤村と神戸のかかわりについてふと心づくことがあった。彼が明治二十六年の春訪れたのは青春の傷痕をいやすためだった。そして、中年の傷もまた、この港から旅立つことによっていやされた。藤村にとって神戸とは、かりそめの場ではなかったようである。〉^{註5}・補註3
「宇治川」と「花隈」は日本映画史に深く関わる。日本映画の歴史は1896(明治28)年キネトスコープ「のぞき眼鏡式活動写真」渡来からはじまる、が定説だそうだ。^{註7}

95(明治27)年頃に神戸の鉄砲店主・高橋信治と大阪の時計店主・三木福助が居留地のリネル商会を介してトマス・エジソン発明の「キネトスコープ」を輸入した。^{註3}

96年11月17日、小松宮彰仁親王(あきひとしんのう)が大日本水産会兵庫支部発会式に出席。式典と関連施設巡覧の後、神戸駅近くの旅館「宇治川常磐」(現在の中央区東川崎町)に宿泊。ここで水産会会員の高橋が「キネトスコープ」(水産会記録では「写真舞踏」)を披露した。同20日に舞子の県知事宅で有栖川宮威仁親王妃慰子(たけひとしん)のうひ・やすこ、舞子別邸に滞在中)にも見せた。高橋は皇族方が喜ぶ様子に自信を得て、同25日から5日間花隈「神港倶楽部」で一般公開した。「神戸又新(ゆうしん)日報」の広告に、「小松宮殿下」の名を出し、上映作品(「西洋人スペンセル銃ヲ以テ射撃ノ図」など日替わりで5作品)と公開時間(午前9時から午後8時まで)を知らせた。^{註7}
〈一巻一分間の同じフィルムを一日中くり返して観覧料二十銭。当時の米四升分に相当するとい

う。〉^{註3}

いわゆる「のぞきからくり」の動画版である。残念ながら、その後の発展はなかった。
〈「後年“一銭活動”に下落し、遊園地や勤工場、劇場、遊技場の隅っこに突っ転がされて、そのうらぶれた姿を、子供たちの前にさらしていた」(岸百舛)〉^{註3}
日本最初の映画公開には大阪と京都も名乗りを上げる。両者はスクリーンに映すリュミエール兄弟のシネマトグラフとエジソン改良のヴィタスコープである。私は個人的に神戸の「のぞき式」は分が悪いと思う。^{補註4}

^{註1} 神戸史学会編『新 神戸の町名』神戸新聞総合出版センター、1996年

^{註2} 大國正美『古地図で見る神戸 昔の風景と地名散歩』神戸新聞総合出版センター、2013年

^{註3} 落合重信・有井基「神戸史話 近代化うら話」創元社、1967年

^{註4} 『故福原会下山人郷土史話シリーズNo.18 明治百年記念号 神戸市内町名由来記(上)』福原源九郎編・発行、1967年

^{註5} 宮崎修二郎「環状彷徨——ふるさと兵庫の文学地誌」コーベックス、1977年

^{註6} 島崎藤村『新生』(筑摩現代文学大系8「島崎藤村集(一)」筑摩書房、1975年

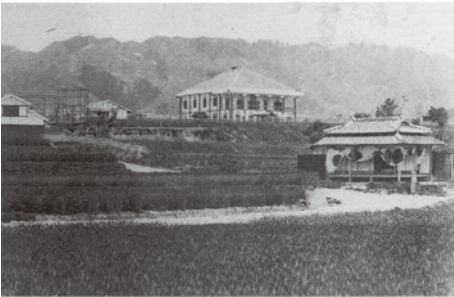
^{註7} 板倉史明編著『神戸と映画 映画館と観客の記憶』神戸新聞総合出版センター、2019年

^{補註1} 伊藤は当時26歳。下級武士の若者が旧藩主と並ぶ重要な地位に就き、外交・内政に政治力を発揮した。また、政府に廃藩置県や朝廷常備軍を建白。特に廃藩置県に伴う「一大会議」と「天下の公論」の提言が保守派の反発を招いた。1869(明治2)年4月判事(副知事)に降格。しかし、同年5月会計官に昇進して、東京勤務になる。(伊藤之雄『伊藤博文』講談社、2009年)より。

^{補註2} 藤村は汽車と徒歩で関西へ向かう。詩「晚春の別離」(詩集『夏草』所収、春陽堂、1898[明治31]年)で各地の風景を歌い、兵庫瀬戸内の歌枕も詠む。童話「眼鏡」(実業之日本社、1913[大正2]年)でも須磨滞在の思い出を記す。自伝的小説「桜の実の熟する時」(春陽堂、1919[大正8]年)は、恋愛(教え子とのことも含む)・信仰・進路に悩む青春物語。パリ滞在中に書き始めた。

^{補註3} 近代文学研究・三好行雄(1926～1990年)は藤村のフランス行きを、逃避ではなく「ぎりぎりに身を起そうとする行為」＝「文学的行動の発端」と見る(『島崎藤村全集7』解説、筑摩全集類聚、1981年)。藤村は西園寺公望を頼り現地の名士に紹介状をもらった。旅費と子どもの養育費に出版社から2000円前借り。次兄に子どもを託すのだが、姪のことはまだ明かしていない。上海から香港に向かう途中に書いた手紙でようやく告白する(河盛好蔵「藤村のパリ」新潮社、1997年)。「新生」にはこうある。〈……実に自分は親戚にも友人にも相談の出来ないような罪の深いことを仕出し、無垢な処女(おとめ)の一生を過り、そのために自分も曾て経験したことのないような深刻な苦痛(くるしみ)を経験したと書いた。節子は罪の無いものであると書いた。(後略)〉

^{補註4} 大阪の輸入商・荒木和一がアメリカからキネトスコープを持ち帰った。明治28年8月頃、大阪の南地演舞場にて高橋と三木が2分10銭で興業、「大入りの好結果」。荒木は再度渡米し、ヴィタスコープを入手。京都染料店経営の稲畑勝太郎がパリからシネマトグラフを持って帰国。明治29年2月に南地演舞場で興業。石井研堂「明治事物起源」(ちくま学芸文庫、1997年。初版は春陽堂、1926年)より。



神戸病院(『写真集 神戸100年』神戸市、1989年)

出来事ファイル (No.19－12)

■元町昭和40年代風景展

こうべまちづくり会館が10月1日(火)、リニューアルオープンしたのを記念して、10月25日(金)～27日(日)まで、同会館3階で、もふもふ堂が、神戸の昔懐かしい「元町昭和40年代」と題した展覧会を開いた。1～6丁目まで、昭和初期の元町商店街を中心に長田商店街、新開地、神戸タワー、神戸駅、三越百貨店前など、華やかに神戸の繁華街を彩り、当時を知る人たちを楽しませていた。



元町6丁目市電駅前

■元町3丁目のハローウィン

10月27日(日)はハローウィンの日。元町商店街では、それぞれの振興組合で、楽しいハローウィンを開催した。3丁目では、希望する子供さんに専門家が化粧を施し、その後、元町商店街のマスコット「もとずきんちゃん」との撮影を楽しむ場を設けた。会場には、子供連れの家族が集まり、化粧も順番待ち。化粧が整うと、準備された舞台でもとずきんちゃんと笑顔でカメラの前に。



■神戸元町商店街のまちづくりの考え方がわかるパンフレット

神戸元町商店街まちなみ委員会

神戸元町商店街まちなみ委員会は、神戸市の認証を受けた「神戸元町商店街景観形成市民協定」により、平成15年6月から同協定が定める基準にのっとり出店者と協議を重ねてきた。が、年月の経過とともに、基準に定めのない問題点も浮上してきたことから、このほど、元町商店街まちなみ委員会のコンサルタント業務をつとめる合資会社ゼンクリエイトの協力により「神戸元町商店街のまちづくりの考え方がわかるパンフレット」を作成、発行した。追加・改訂されたのは「まちなみ形成ルール」の部分で、内容は次の通り。

- ①アーケード下(建物1・2階部分)のファサードは、一体感あるものに調和します。
- ②建物の色彩・デザインは、街並みとの調和に配慮します。
- ③店舗の照明やショーウィンドウを工夫して、営業時間外も来街者が楽しめるようにします。
- ④シャッターは、リングシャッターで店舗外観をみせたり、ファサードと調和した色とし、店名や営業時間を記すなどして、閉店時も店舗の並びがわかるようにします。
- ⑤南北軸(通り)との交差点部は、1階角地の開放性など界限性の向上に寄与したビルづくりに努めます。

これらルールの下段には、元町商店街でルールにふさわしい店舗群を紹介、視覚的に理解を深めるよう配慮している。

また、最終頁には、市民協定の項目別チェックリストも添付した。

■MMW 南京町でコンサート

神戸元町商店街が主宰する恒例の元町ミュージックウィークでは10月5・6の両日、元町地域一帯でストリートコンサートを開いた。会場は、元町商店街の1丁目から6丁目までの路上にぐわえ南京町広場、今年から神戸駅前前のDUOドームでも開催した。女性コーラスからフォーク、ギター、クラリネット、ヴァイオリン、ポップス、民族楽器まで登場、1ステージ30分の公演で来場者を楽しませた。



□元町商店街でベンチコンクールを

元町商店街1～6丁目までの総延長は1.2㍓。ベンチを置いているのは一部の丁に限られるが、高齢者を中心に利用者は多い。そこで神戸地域ビジョン委員会から「毎年、若手造形家が考案、製作したユニークな椅子、ベンチ等、発表の場として来街者に1年間使用してもらい、年間使用1位の人気椅子やベンチを決める」コンクールの場にしては、との企画が寄せられている。



利用者の多いベンチ

■神戸駅東地区クリーン作戦

11月第1水曜日の1日、神戸駅東地区クリーンチームが、清掃作業を実施した。参加したのは奈良山会長以下エスタシオン・デ・神戸の10名、ネットヨタ兵庫隊21名のほか、元町通7丁目自治会からも地元道路清掃に2名が参加した。



ネットヨタ兵庫隊のみなさん

